

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ●第40回●

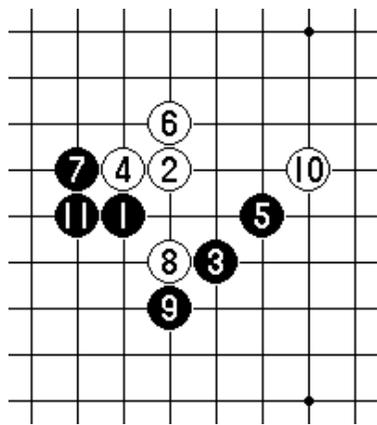
#### 挑戦手合い反省

久々の挑戦手合いも終わり、反省材料ばかりが残った。前々から言っているが、第一局を特に挑戦者が落とすと辛い。孫子の兵法に「己を知る」ことの重要性が説かれているが、今回の挑戦手合いでそのことを痛感したので述べてみたい。まずは第一局から。

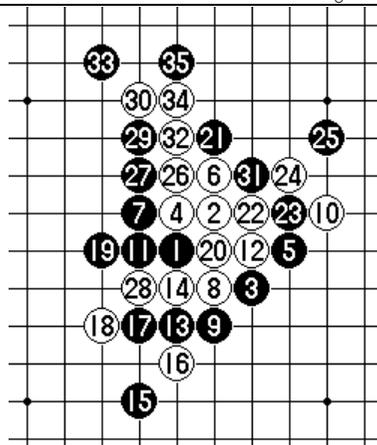
#### ◆挑戦手合い第1局

水月六題指定は予定通りだが、A級リーグの時は五題だったので、一ヶ月で一題増えたということになる。黒の対抗策が次々に見つかったためだが、本譜の黒5は白の防ぎがわからなかった。そこで、思い切ってかけてみた。

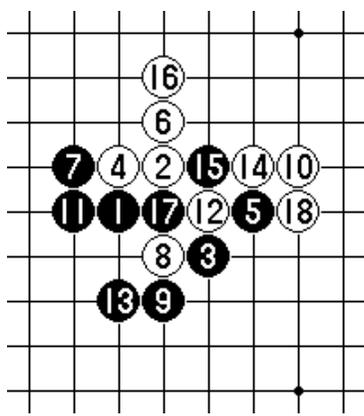
白4を6と打つ形を研究していたが、黒5に対し白6はここしかないのでは、結



局同じになる。白8も当然研究していたのだが、白12は次の図の一手と思いい、白14の時黒15の四ノビで三々を解消して以下簡単に黒勝ちと思っていた。しかし、白20、26で見事に乗られる。長考の結果、それで



も四ノビを駆使して止めれば何とかなる、というのが午前中の読みであった。しかし、いざ実際打ってみると、実戦の勝ちが見えた。研究漏れを突かれた、と言えば聞こえはいいのだが、局後の検討で次の図のように四三々にしての白勝ちを指摘された。これには唖然とした。結果として、これは研究漏れというレベルではなく、お粗末なものであった。



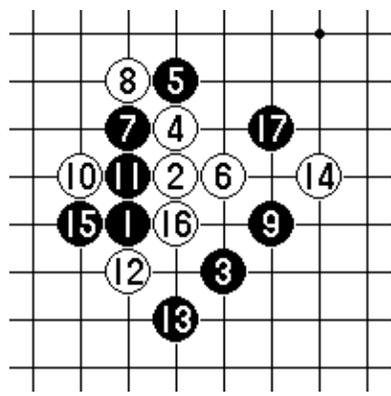
一局目がこんな出来では挑戦手合いの行く末は見えたも同然だが、何とか第3局を踏ん張って迎えた第4局も振り返って

みよう。

#### ◆挑戦手合い第4局

長谷川名人が水月六題を指定するとは思わなかった。題数を見て初めて珠型が水月だとわかったぐらいである。水月六題なら白を持ち4と打つのは当然で、一局目の借りを返す意味でも、こっちにとっては他の珠型よりはありがたかった。

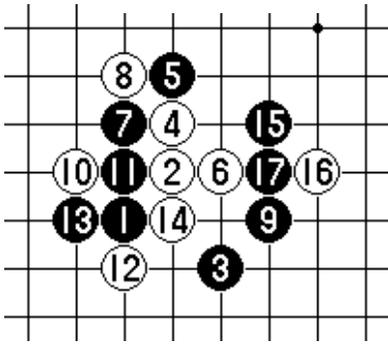
黒5が六題目としては有力で、これなら白12までは世界戦でも打たれた順であり、ちようど今講評している最中でもある。世界戦を



見た印象では、白12までな

ら白がいいだろうと思っ  
いたが、いざ実際打たれて  
みると案外難しい。と同時  
にある種の違和感が襲った。  
午前中までが黒17まで進  
んだ局面なのだが、昼食休  
憩中を挟んで何かしつくり  
来ない感覚が感じられた。  
直感で言えば白18と伸  
びてから20なのだが、どう  
も納得できない。と言うの  
も、もし黒13を先に15と押  
さえれば参考図1のような  
展開になるのは自然で、そ  
の時は黒が先にこの三を打

<参考図1>



てるのである。自然に打っ  
て黒が三を打てるなら、白

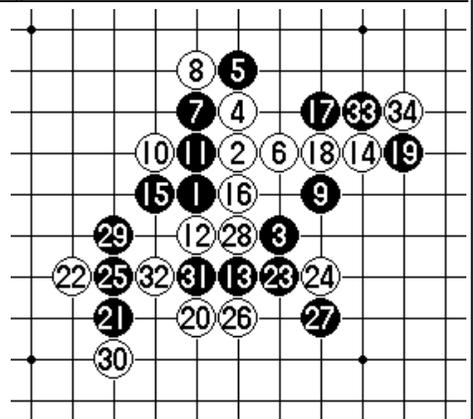
はここで無理やり四を打つ  
必要はないんじゃないか？  
と思いついたのだ。おそ  
らくこの図でも黒は勝て  
ないので、白としては伸び  
ない作戦は十分に考えられ  
た。

もう一つの午前中の感覚  
として、これは困ったこと  
なのだが、この形から終局  
まで打つのがひどくしんど  
く思えてきた。「これ以降  
興味がない」というのが一  
番近い感覚だろうか。と言  
うのも、昔から研究は序盤  
しかしておらず、互角の局  
面をそのまま中盤以降研究  
するのは性にあっていない。  
(実は石を並べるのが面倒  
という話もある)なので、  
中盤以降の打ち方は歴代の  
名人の中でも最も下手であ  
ろう。第3局のような一気  
の寄りに醍醐味を感じてい  
る以上、互角の局面から先  
の長い道のりを打っていく  
気力が沸いてこない。実際  
には白が勝つチャンスは十

分あるのだが、相手が長谷  
川名人というだけでも絶望  
的に思ってしまった。

ここから冒頭の話になる  
のだが、長谷川名人は人に  
何と言われようと「知識蓄  
積型」のスタイルを貫いて  
いる。今回の疎星、水月で  
もわかるように、一つの珠  
型を結論がつくまでしつこ  
く追い求めている。それが  
好成績にもつながっている。  
「己を知る」ということの  
重要性でもある。ならば私  
も「序盤研究&ひらめき型」  
としてもっと自分の長所を  
伸ばす方向性を追い求める  
しか活路が見えてこないと  
思っている。

第4局を少し補足してお  
こう。黒21の浮かし止め  
に惑わされたのだが、当然白  
22は29でなければならな  
かった。最近の傾向として、  
考えすぎることによって悪  
い選択をしてしまうことが  
多かったのだ、できるだけ  
直感のまま打とうと思っ



いた。しかし、この22は考  
えすぎの悪い結果で、見え  
ない影におびえてしまった。  
黒23という手を打たせて  
はいはいはずもない。

それにしても、長谷川名  
人の打つ手は参考になる。  
黒27、33はさすがという打  
ち方であった。白34は直感  
のままに打ったら逆に敗着  
となってしまう。

局後に気がついたのだが、  
午前中の違和感の原因は、  
従来の常識が通用しないこ  
とが原因であった。早く新  
常識に馴染まなければ！。